

## おきなわ・海歩き 第11回 本物のエコツアーに行ってみよう

鹿谷麻夕（しかたに・まゆ）

最近、観光ガイドブックなどでも注目されるエコツアー。海の生き物を探しながらサンゴ礁の干潟を歩いたり、マングローブの水路をカヌーですいすいと渡ったり、やんばるの森をトレッキングしたり。しかし、自然の中での遊びならみんなエコツアーでしょうか？ エコツアーというのは一体どういうものか、本来の意味は意外に知られていないような気がします。

エコツアーのもとになる考え方を、エコツーリズムといいます。これはツーリズムにエコロジーをくっつけた言葉。エコツーリズムにはいろいろな定義がありますが、基本的には、まず地域の自然や文化を保全しながら観光に活用すること。次に、そこから得られる収入が地元の人に届くような仕組みであること（例えば地元のガイドを使う、観光地を素通りするのではなく、地元の宿泊先やレストランを利用する、地元の食材を使ってもらうなど）。そして、そのことが地域本来の生活を安定させて、むやみな開発行為を押さえ、その地域ならではの自然環境や生活文化がよりいっそう守られていく。そんな持続的な仕組みを作ろうという考え方です。そして、従来の観光と違い、エコツアーには「体験」「教育・学習」「環境保全」という要素が含まれています。

エコツアー発祥の地ともいわれる中米・コスタリカで、森のエコツアーに参加したことがあります。国の中央よりやや北寄りにあるモンテベルデは、熱帯雲霧林と呼ばれるうっそうとした森で知られています。ここには民間の自然保護区があり、その一部分に谷を渡るツアー用のつり橋やトレイルができています。いずれもガイドについて歩き、人数は1グループ十数人、森の保護のため1日の入域人数が制限されていて予約が必要です。森のガイドは地元の青年で、資格試験を通り、ガ



ナマコ触ってみたいひとー！（恩納村）

イド組合に入った者だけがここでガイドをすることができます。彼らは生物や生態学について高いレベルの知識を持っており、研究所のセミナーやガイド仲間の勉強会で常に新しい情報を得ているそうです。従って、解説は学問的にしっかりしており、それを分かりやすく興味を持てるように話してくれます。つり橋は人工物ですが、地面を歩かないのでかえって自然を痛めないですむようです。また木々のこずえや着生植物を上や真横から観察することができ、森への新しい視点が得られる楽しい演出でした。森の中のトレイルは歩きやすいよう最小限に整備され、人工物はルートのご案内板程度。日本によくある、植物の説明板のようなものは一切ありません。しかしガイドと一緒になので大丈夫。質問があればその場でいくらでも聞けばいいのです。ガイドはフィールドスコープをかつぎ、森の解説をする合間に鳥の声がすると、さっとスコープを構えて、美しい羽をもつ鳥をレンズ越しに見せてくれました。

こうしたエコツアーには、「決まった見せ物」がありません。逆に言えば、季節やその日の天気によって、出会える自然は違ったものになります。ハズレの日があっても、そこは自然が相手、こちらは文句が言えません。しかし、それでもツアーを楽しく意味のあるものにしてくれるのが、エコツアーガイド。最近ではインタープリターと呼ばれることもあります。説明者とか通訳者という意味ですが、自然に関する豊富な知識と、参加者に応じてそれを分かりやすく伝える技術を持つ人のことです。カヌーやシュノーケリングなどでは技術的・体力的なスキルも必要



モンテベルデのつり橋ツアー（コスタリカ）



その場で標本を集めて、海藻と海草の違いを解説中（名護市）

ですし、さらに安全管理や環境への配慮など、エコツアーガイドには学ばなければならないことがたくさんあります。エコツアーの良し悪しはガイドで決まると言ってもいいでしょう。ガイド料金は決して安くはないかもしれません。しかし良質なガイドのついた少人数のツアーでこそ、参加者はその自然を体験し、生態系がどのようにになっているのか、なぜそれらを大切にすることが必要なのかを学び、理解することができます。そして、帰るころにはそのフィールドがきっと好きになっていることでしょう。

現在、日本でエコツアーという名前を付けた企画の中には、団体に自然をささっと見て回るだけの、本来のエコツアーとは呼べないような薄利多売型もあるようです。これではエコロジーというよりエコノミー・ツアーですね。専門的な解説のできるガイドも不足していて、ガイドのレベルアップが課題の一つです。また、エコツアーにとって環境保全は大切な要素ですが、自然の中に入っていくことそのものが、実は自然に負荷を与える行為でもあります。従って、自然の中に入る人数や、時期、範囲などは、環境や生態を壊さないで維持できるレベルに押さえることが必要です。こういったことにきちんと対応できて、初めて本物のエコツアーと呼べるでしょう。沖縄でも、より良いエコツアーを目指していろいろな活動が始まっています。みなさんも、どうぞ本物を体験しに出かけてみてはいかがでしょうか？



ツノメガニ、つかまえたよ！（玉城村）